

因北中学校 研究だより

学びを深める
～互恵的な授業づくりを通して～

令和元年6月25日（火） 第2号

● 6月21日、第1回校内研究授業・研究協議会が行われました。

- 1 授業を行った学級 1年B組
- 2 教科・単元 保健体育科・マット運動
- 3 学習課題 開脚後転に挑戦しよう！
- 4 授業の展開

- ・後転の学習経験がなかったため、手の付き方を工夫する等、スムーズに後転するための方法を考え、実際に試してみるという展開で進められました。
- ・初めは後転ができなかった生徒が、友だちからのアドバイスを受けてできるようになりました。

5 研究協議

「学びはどのように深まったのか」という視点から意見を出し合いました。（主な意見）

- ・保健体育科であっても、体の動きを言語化して伝え合うことが大切であることがよく表れていた。
- ・あるグループでは、「できる時」と「できない時」とを比べて、その理由を考え合っていた。また、上手くできない生徒は、グループで考えた改善策を取り入れて何度も練習していた。
- ・生徒が相互に話し合う姿を見ていると、例えば、上手に後転できる生徒の模範演技を全体で見て、できる理由を考えさせる展開にすると、学習の深まりが全体へ波及しやすくなると期待できる。

6 指導・助言（島根県立大学 古賀洋一先生）

- ・自己肯定感が高まる場面は4種類に分類される。（①日々の授業の成功体験を積み重ねて高まる。②自分と似た他者をモデルに模倣体験をして高まる。③他者からの励ましによって高まる。④頑張ろう等の感情的な面から高まる。）このうち①や②が特に重要であり、その短期的な成功体験による自信をいかにして長期にわたる自信へつなげていくかが研究すべき点であろう。
- ・生徒の自己肯定感を高めるための手だてとしては、①学習課題を生徒が解決したい課題にすること。②生徒が「動ける」「考えられる」ようにするためにイメージ化や観点の明確化を図ること。③粘り強さを生み出すために励ましや問いかけを行うこと。が重要になってくる。

7 今後に向けて

- ・学びを深める学習を生み出すために、授業の中で時間をかけるところと絞るところを明確にするよう授業構成を考えていきましょう。
- ・話し合いを行う際には、答を考える観点を明確に示すようにしましょう。
- ・生徒に発表させる場面では、理由をつけて説明させるようにすることで、発言者以外の生徒の理解の深まりにつなげるようにしましょう。
- ・VTRを活用し具体的に基づく意見交換を行うために、次回（9月）は協議時間を増やすよう時程を改善していきます。

※「生徒の学びを中心に話ができる喜び」を味わえる教育研究を、力を合わせて創っていきましょう！

